



田中俊一先生を偲ぶ

芳野俊彦

(開成学園)

田中俊一先生(東京大学名誉教授)が、今年8月7日にお亡くなりになりました。享年76歳でした。心よりお悔やみ申し上げます。ここに、簡単ではございますが先生のご略歴、ご研究歴をたどり、ご遺徳を偲びたいと思います。

先生は、第一高等学校を経て、昭和26年に東京大学第一工学部計測工学科をご卒業後、大学院特別研究員となり、昭和29年に東京大学工学部助手に着任され、以来、講師、助教授を経て、昭和46年から教授になられました。昭和62年に東京大学を定年退官された後は東京理科大学において、理学部教授、平成5年から基礎工学部教授を勤められ、本年3月に退職された後、引き続き非常勤講師をされておりました。昭和38年から1年間、カナダのNRCでござられました。この間一貫して光学の教育研究に携われ、多くの足跡を残されました。

学協会活動に関しては、応用物理学会理事、光学懇話会幹事長、学術審議会専門委員、光産業技術標準化技術委員会委員長をはじめ多くの役職を勤められ、国際会議関係では、ICO (International Commission for Optics)、OFS、MOCなどの国内開催に際して、組織委員長、募金委員長などを勤められるなど、わが国の光学の発展に多大の尽力をされました。また、“Optica Acta”の編集委員も昭和59年以来勤められておりました。

田中先生は、光学の研究において多くの業績を挙げられました。先生の時代は、レーザーの出現前後にまたがっており、ご研究も時代を反映したものになっております。先生は一貫して光学を物理光学的な側面から捉え、多くの新しい研究テーマに取り組みされてきたといえましょう。年代順に振り返ってみますと、まず赤外線ガス分析機の研究(1952~1962年)から始められ、偏光による紙・すりガラスなど反射特性を詳細に研究されました(光学論文賞受賞)。その後、パーマロイなど磁性薄膜の磁気光学効果の研究

(1962~1972年)をされました。これは私の博士論文のテーマとしてもご指導いただきました。レーザー時代を迎え、先生はホログラフィーに強い関心をもたれ、その発展の初期の段階から基礎と応用について研究されました(1968~1977年)。その後、非線形光学の研究(1977~1986年)、光導波路レンズの研究(1977~1984年)に携われました。

研究に関して先生から多くのことを学びましたが、最も強く感化を受けたのは、「理論と実験を常に同時に行う」という研究姿勢でした。研究において真実を掴むためには、深い理論的な洞察と実験的な検証を常に同時に行うことの大切さを身をもって教えてくださいました。先生は大変誠実で几帳面な方でもありました。論文や書籍の執筆に際しては、1つのミスも許さない厳密で慎重な姿勢で臨まれました。原稿を査読される場合など、文章のみならず、式の導出に至るまですべてご自分で克明にチェックされ、それを原稿に赤で書き込まれるので、執筆者も直すのに大変という具合でした。先生のミスを許さないこの姿勢は、光学関係の辞典の編纂をされたときなどには、いかにその力を発揮しました。10数年間にわたり、膨大な数のホログラフィーに関する文献リストを作られたことも印象的でした。ちなみに先生は、切手収集がご趣味でした。

先生はいつもにこにこ笑顔を絶やさない円満なお人柄の方でした。人の相談には親身になってのってくださり、もちかけた提案に対してはたいがいの場合、「いいんじゃない、いいんじゃない」と答えられ、相手にとって最良の方法を考えてくださるのが常でした。先生は控えめなお人柄で、ご自分の考えを他に押し付けたり、まして権威主義的なところは微塵もありませんでした。その影響か、門下生もそれぞれ自由にわが道を進んでいるようです。かつて先生に文部省科学研究費の特定研究「光波センシング」(1986~1988年)の研究代表者をお願いしたことがありま

す。当時先生はすでに東京大学をご定年間際でありましたが、お願いを快く引き受けてくださり、苦勞の末採択された特定研究でしたが、結局ご自分では研究費を使われることなく、ひとえに日本の光学研究者のために奉仕されました。ここにも高潔なお人柄が表れております。

先生はまた、人との交わりを大変大事にされる方でした。正月には決まってご自宅に研究室関係者を呼ばれ、奥様の手作りの料理をご馳走してくださるのが常でした。門下生の数が増えてからは、原宿の中華料理店で年賀をやる

のが恒例になっていましたが、この数年は先生の体調が万全でなく中止が続いていました。このような体調でも先生の教育に対する情熱は熱く、理科大での授業についてよくお話をされていました。お亡くなりになったのは、先生がこよなく好まれ、夏はいつも奥様とご一緒にすごされる北軽井沢の別荘でした。ちょうど、期末テストの答案の採点を終え、帰京のため車に乗り込まれた瞬間とのことです。最後まで教育に手を抜かない先生らしいお姿でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。